

# 平成28年度 英語が好きになる学校づくり 取組報告書

事務所名	県南教育事務所	学校名	奥州市立江刺愛宕小学校	TEL	0197-35-2061
------	---------	-----	-------------	-----	--------------

児童も教師も、楽しみながら英語に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ることを通した、英語が好きになる学校づくり

## 【ねらい】

教師も児童も、無理なく、そして継続的に取り組み、楽しみながら英語に慣れ親しむことを通して、英語が好きになる学校づくりを行うこと。

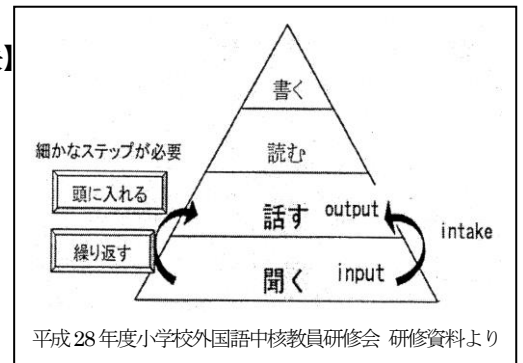
## 【具体的な取組】

### 1 高学年における「外国語活動」の更なる充実

【手立て1 言語の習得過程モデルに基づいた英語に慣れ親しむ活動の工夫】

言語の習得過程である「input-intake-output」の中でも「intake」を重視した活動の工夫を行った。「input」と「output」をつなぐ「intake」とは、注意して読み聞きする過程で、「input」のメッセージ内容を理解して、それを繰り返し発話することで頭に取り入れていく習得過程と捉えることとした。指導者の発話をリピートする活動（「input」）から児童自ら表現する活動（「intake」⇒「output」）へと移行していくような基礎的活動を構成することが効果的であると考え、高学年を中心に実践した。

### 【資料1】言語習得の過程をふまえた指導




### 【資料2】「input」から「intake」への移行を重視した基礎的活動の展開(5年 Lesson8『夢の時間割をつくろう第1時～第3時』)

**<第1時>** 平成28年11月10日(木) 5校時

- ・【Let's Play①】「スリーヒントクイズ」
- ・【Let's Play②】「キーワードゲーム」⇒「聞く」⇔「リピート」(単語:教科)
- ・「ポイントゲーム」⇒「聞く」⇔「リピート」+「単語と絵を結び付ける」
- ・【Let's Listen①】「今日の時間割は何か、考えよう。」
- ・【Let's Sing】「Sunday, Monday, Tuesday」⇒「フレーズを繰り返し歌う」


**主に「教科」「input」が中心**



**<第2時>** 平成28年11月16日(水) 5校時

- ・【Let's Play②】「キーワードゲーム」⇒「聞く」⇔「リピート」(単語:曜日+教科)
- ・「ミッシングゲーム」⇒「絵カードを見る」⇔「記憶から引き出す」
- ・【Let's Chant】「What do you study?」⇒「フレーズを繰り返し歌う」
- ・【Let's Listen②】「どんな学校生活か、わかったことを書こう。」


**主に「曜日」「input」⇒「intake」**



**<第3時>** 平成28年11月18日(金) 5校時

- ・【Let's Chant】「What do you study?」⇒「フレーズを繰り返し歌う」
- ・【Let's Play②】「キーワードゲーム」⇒「聞く」⇔「リピート」(単語:教科+曜日)  
+「自分の立場を伝える」(ex. I study music.等)
- ・「What do you study?じゃんけん」⇒「フレーズを繰り返し話す」
- ・「ラッキーカードゲーム」⇒「質問する」⇔「答える」
- ・「仲間をさがそう。」⇒「質問する」⇔「答える」

**主に「教科」「intake」が中心**

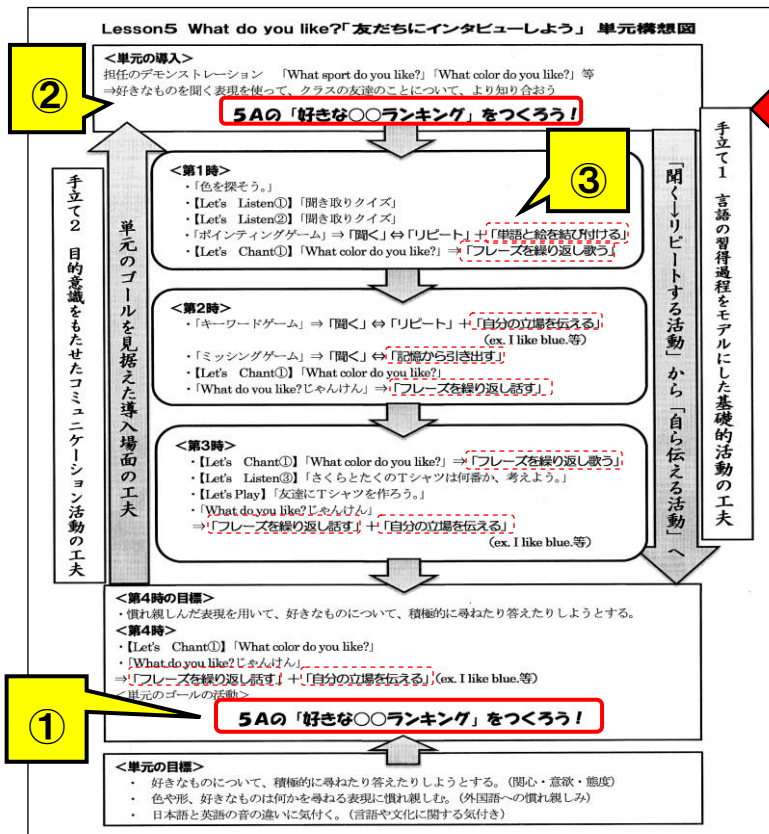


第1時から第3時まで、「input」から「intake」への移行が図られるように活動を構成し、最後には自ら「質問する」⇔「答える」活動を繰り返したことで、自信をもって表現する姿が見られるようになった。

【手立て2 目的意識をもたせたコミュニケーション活動の工夫】

児童に単元のゴールを示し、目的意識をもたせたコミュニケーション活動を設定するようにした。また、英語によるコミュニケーション活動を通して、「相手のことをより良く知る」ことができた実感を得られるように、単元構想の工夫を行った。

【資料3】5年Lesson5 What do you like?「友だちにインタビューしよう」単元構想図



- ①児童が、本単元において目的意識をもつことができるようなコミュニケーション活動を構想
- ②単元終末のコミュニケーション活動から導入場面を構想
- ③単元を通して「input」中心から「intake」中心の活動に移行していくように活動を構成(点線部分)

この単元の学習では、どんなことをするのが楽しみですか?(5年生への意識調査より)

- ・基礎的活動を手段として捉え、コミュニケーション活動を目的と捉えている記述(「いろいろな単語を知り、みんなで質問しあったりするのが楽しみです。」等)
- ・内容への興味・関心を示した記述(「好きなものを聞いたり、大切なものを聞いたりしてみたいです。」等)
- ・コミュニケーション活動のよさ・楽しさを期待する記述(「友達にインタビューして、友達のことをいっぱい知ることができるのが楽しみです。」等)

Lesson5でのコミュニケーション活動を行った際の児童の振り返りカード(5年生より)

- ・コミュニケーションを図る楽しさを感じることができた記述(「たくさん質問することで、さらに英会話が楽しくなりました。」等)
  - ・友達と互いにより理解し合えたという実感をもつことができた記述(「好きなスポーツを聞いて、今まで知らなかったけど、今日知ることができた。」等)
- これらのことから、外国語そのものを「言えた」ということに留まらず、児童にコミュニケーションを図る楽しさや友達と互いにより理解し合えたという実感をもたせることができたと考えられる。

2 全校児童が英語に慣れ親しむ環境づくり

【手立て1 低・中学年担任とALTでの外国語活動の授業の実践】

低・中学年児童も年に数回、外国語活動の授業を行い、英語に慣れ親しむことができるようにした。

低・中学年担任も、授業のイメージをもてるように、1回目の実践(1学期後半～2学期前半)は、ALTがメインとなって授業を展開してもらうようにした。また、11月には、中核教員や高学年担任の授業を低・中学年教員等が参観し、担任による外国語活動の授業の展開について研修することができるようにした。

以上の研修をもとに、12月以降のALT来校時、低・中学年の各学級で授業実践を行う予定である。





【手立て2 日常的に英語に慣れ親しむ環境づくり】

昼の放送でALTが放送したり、昼休みに「English Time (ALTと英語でのゲームをして楽しむ時間)」を行ったりして、全校児童が英語に慣れ親しむことができるようにした。

【English Time 活動例 (低学年)】

○英語でのやりとりに慣れ親しむ活動



「紙飛行機を作って、的の近くに飛ばそう」というゲームを行った。紙をもらうために「Paper, please.」「Thank you.」、名前を書くために「Pen, please.」等の表現を使う必要感をもたせ、英語に慣れ親しませることができた。

【English Time 活動例 (高学年)】

○日本と外国との文化の違いに気付く活動



ALTの出身地であるアメリカの食文化について紹介してもらった。ファーストフード店で販売している飲み物の量等、写真を交えながら紹介してもらったことで、児童は日本との違いに驚き、外国の文化に興味をもって話を聞いていた。

3 外国語活動における授業改善に向けた研修の充実

【手立て1 授業指導力向上に関わる研修の充実】

【手立て2 英語運用能力向上に関わる研修の充実】

職員会議・校内研究会において時間を設定し授業指導力・英語運用能力向上を図るようにした。職員会議では、主に「理論編」(外国語活動の理念・学習指導要領・今後の動向について)、校内研究会(全体研究会)の冒頭部分では、主に「実践編」(授業作り・実践例・Classroom Englishについて)の研修を実施し、1回につき5~10分程度の短時間ではあったが、共通理解を図ることができた。

【資料4】校内研修資料(一部抜粋)

## ケンゾーの Let's enjoy English!!

No. 2  
2016/5/26  
奥州市立  
江刺愛宕小学校  
外国語活動担当

今日のポイント!! できるだけ

### 英語は、英語を使って教えよう!!

0 「英語が好きになる学校づくり」の「取組の目標」を再確認  
児童も教師も、楽しみながら英語に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ることを通じて、英語が好きになる学校づくりを推進する。

1 平成28年度5Aの外国語活動の授業開きから  
**担任が主に説明したこと**

- ・授業のはじめのあいさつの仕方 (Let's start!! O.K!!)
- ・教科書のことを「textbook」と言うこと
- ・ブライアント先生の自己紹介の補足  
⇒「bike」は、「バイク」ではなく「自転車」であることをジェスチャーで説明

**担任が主に日本語を使った部分**

- ・教科書の目次から1年間の学習の流れやアクティビティの確認
- ・デモンストレーションの後に、  
「藤三先生とブライアント先生が何を話していたか何となくわかったという人?」

**担任が主に英語を使った部分**

Stand up! Sit down!  
Please open your textbook to page 2 and 3.  
Hello! My name is Kenzo Kumagai. Nice to meet you. Bye  
ブライアント先生と一緒にリピート  
Make pairs.  
Go around.  
Ten!, nine!, eight!.....three!, two!, one!, zero! (活動をやめて息いで戻ってきた。)

「外国語活動」を初めて学習する子ども達にやってみてわかったことは…

※ALTの話していることをいちいち同時通訳しない!!  
⇒ALTの「英語」を聞かずに、担任の「日本語」をよく聴く子を育ててしまう!!

※日本語でよく使いたい表現  
「気づかせる」⇒発音を大いに覚める!!  
「英語」を「英語」で聞こうとする!!

ジェスチャー

## ケンゾーの Let's enjoy English!!

No. 8  
2016/9/1  
奥州市立  
江刺愛宕小学校  
外国語活動担当

### 次期学習指導要領改訂に向けた これまでの審議のまとめ(素案)より②

1 「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案) (総論部分)」より  
⇒9. 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性  
(1) 各学校段階の教育課程の基本的な枠組みと、学校段階間の接続  
②小学校  
(ⅱ) 言語能力の育成と国語教育、外国語教育の改善・充実  
(ウ) 外国語教育の充実  
(c) 短時間学習等の活用など、柔軟なカリキュラム設定に関する考え方

○ これまでの成果・課題を踏まえつつ、教育課程全体の枠組みを考慮すると、小学校高学年において年間35単位時間増となる時数を確保するためには、ICT等も活用しながら10~15分程度の短い時間を単位として繰り返し教科指導を行う短時間学習(帯学習、モジュール学習。以下「短時間学習」という。)を含めた柔軟なカリキュラム設定の在り方と必要な「カリキュラム・マネジメント」を、教育課程全体を見通しながら実現していく必要がある。

○ 弾力的な授業時間の設定に関する研究開発学校等の先行的な取組状況や「教育課程の編成・実施状況調査」の結果、これまでの成果・課題等を踏まえ、今後、外国語科の特質を踏まえた指導内容のまとまりや教育効果を高める観点から、短時間学習を行う場合には、学習指導要領上の標準授業時数内で、その時間を年間授業時数に含め、その目標を明確にし、まとまりのある授業時間との関連性を確保した上で実施することが必要である。

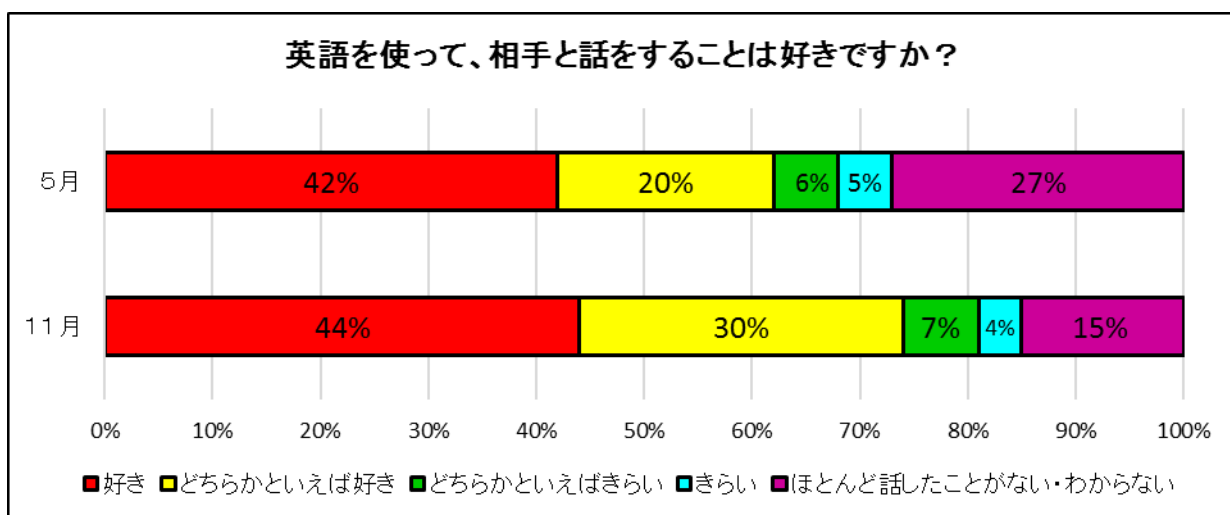
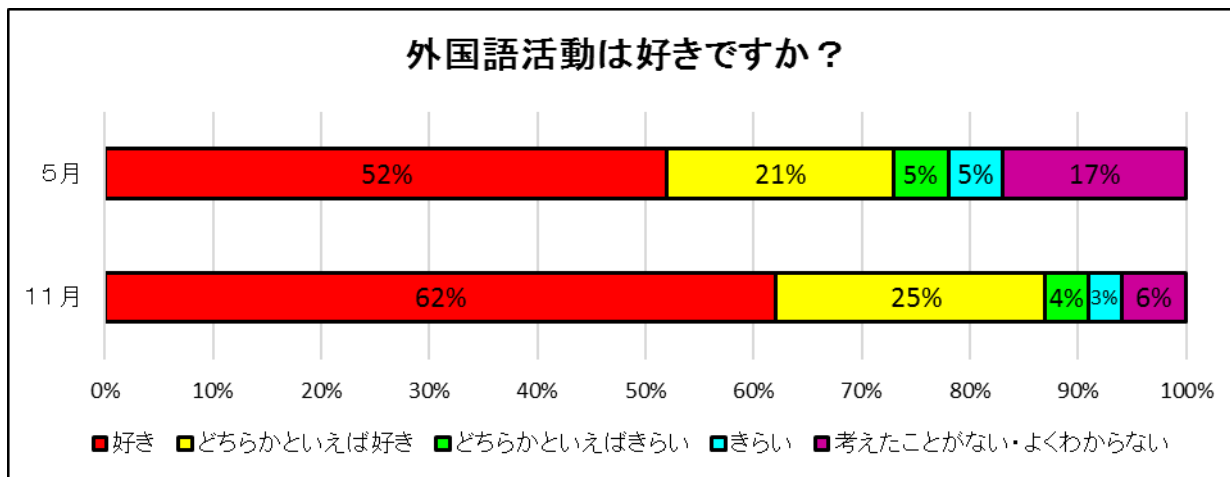
○ 前述の調査結果や小学校の取組の現状を踏まえると、短時間学習については、授業時数内外様々な教科も含めた取組が行われており、すべての小学校において、外国語科に特化した短時間学習を一律に行うこととするのは困難な状況にある。このため、年間70単位時間における一定の短時間学習の在り方を横並びで求めるのではなく、ある場合には45分授業を60分授業の扱いにして、その中の15分を短時間学習として位置付けることや、また別の場合には外国語科の短時間学習を2週間に3回程度実施する。さらに別の場合には夏季、冬季の長期休業期間において言語活動を行うなど、地域や各学校の実情に応じた幅のある柔軟なカリキュラムの設定が必要である。

○ 中学年においては、年間35単位時間、週あたり1コマ相当の外国語活動を、短時間学習で実施することは困難であり、小学校の教育課程全体を見通した「カリキュラム・マネジメント」が必要である。

○ 以上を踏まえた検討とともに、担当する教員が、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任を持って行う体制整備が必要であるといった観点から、教員養成、教員研修及び教材開発に関する条件整備が不可欠である。

#### 4 意識調査の結果

##### 【資料5】児童の意識調査の結果と変容(全校児童260名)



「外国語活動は好きですか？」に対して、肯定的な回答は、73%から87%に変化し、「英語が好き」と思う児童が増加したことがわかる。また、「考えたことがない・よくわからない」は17%（43名）から6%（16名）に減少し、英語を使った活動が児童にとって身近に感じられるようになってきたことが推察される。

「英語を使って、相手と話をすることは好きですか？」に対しては、肯定的な回答が62%から74%に増加した。一方で、11月に「ほとんど話したことがない・わからない」と回答した児童は15%（38名）おり、コミュニケーションを図る楽しさを実感する機会が不足していたことが考えられる。

##### 【資料6】教員の意識調査の回答（左側:5月 右側:11月 教員16名から主な記述を抜粋）

###### <授業指導力に関わって>

- ・もう少し趣旨を理解したい。
- ・活動あって学びなしになっている時が多い気がする。
- ・より良い授業の例をあまり観る機会がなく、自分でも、もちろんできていない状況にある。

###### <英語運用能力に関わって>

- ・ゲームや取り組み方等、児童が理解できていない気がして、日本語を使ってしまいがちである。
- ・クラスルームイングリッシュが身につけていないと思う。
- ・中学年担任なので機会がない。

###### <授業指導力に関わって>

- ・校内研修等で、具体的な指導・学習の姿をイメージすることができた。
- ・授業を見せてもらったのが自分の中で大きい。活動のバリエーションを増やすことができたように感じる。

###### <英語運用能力に関わって>

- ・可能な限り使っているが、指示を出す言葉を覚えていきたい。
- ・ほめる時、指示はなるべく英語とジェスチャーで行っている。
- ・発音に自信がない。(同様な回答4名)

#### 【成果】

- ・中核教員とALTが連携し、全教員・全校児童が英語に慣れ親しむ活動を行う機会を定期的に設けたことで、「英語が好き」だと感じる児童を増やすことができた。今後、低・中学年の児童が英語に触れる機会を増やしていきたい。
- ・授業指導力向上・英語運用能力向上に関わる研修を、短時間ではあるが継続して行ったことで、全教員で共通理解が図られ、外国語活動の授業の在り方についてイメージをもつことができた。英語運用能力の更なる向上が必要である。